



2023年2月9日

各位

会社名 東洋エンジニアリング株式会社
代表者 取締役社長 永松 治夫
(コード:6330 東証プライム)
問合せ先 経理部長 大和 武史
(TEL 047-454-1521)

2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は本日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2022年5月12日に公表いたしました2023年3月期(2022年4月1日～2023年3月31日)の通期連結業績予想の修正を決議いたしましたので、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 2023年3月期通期連結業績予想数値の修正(2022年4月1日～2023年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2022年5月12日発表)	百万円 210,000	百万円 2,000	百万円 2,500	百万円 1,500	円 銭 25.60
今回修正予想(B)	200,000	4,000	3,000	1,500	25.60
増減額(B-A)	△10,000	2,000	500	—	
増減率(%)	△4.8%	100.0%	20.0%	—	
(ご参考)前期実績 (2022年3月期)	202,986	2,963	3,126	1,620	27.65

(注) 2019年3月に発行しましたA種優先株式を含めて1株当たり当期純利益を算出しております。

2. 修正の理由

売上高は円安によって若干の増収となる一方、一部案件の受注時期の遅れ等による減収が見込まれ、前回予想から100億円減収の2,000億円となる見込みです。

営業利益は円安による増益効果と海外子会社の収支改善等により、前回予想から20億円増益の40億円となる見込みです。その一方で、為替変動リスクは為替予約等で原則ヘッジしているため、円安の影響により営業外損益段階で為替評価損の発生があること、また持分法適用関連会社が手掛ける一部プロジェクトの進捗が期初想定を下回り、利益計上が翌期に期ずれすると見込まれるため、営業外損益段階では15億円の減益となる見込みです。結果として円安による損益影響が相殺され、経常利益は5億円増益の30億円、親会社株主に帰属する当期純利益は海外子会社の収支改善による税金費用を考慮し、前回予想を据え置く15億円となる見込みです。

(注) 上記の業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合がございます。

以上